

第65回 北九州市環境審議会 委員からの主な意見

計画全体に関する意見

- 市民や企業がどのように行動したらいいか、また、取組に誇りを持てるよう、分かりやすい計画を作ることが必要。また、計画をもっと知ってもらう取組が必要ではないか。
- 目標（指標）をどのように設定、計測するか
施策の相互連携による相乗効果を意識する
市内外を含め、サプライチェーン全体にどのように働きかけていくか
など、検討する必要がある。

環境意識の向上・行動変容に関する意見

- 日ごろの会話で、豪雨や台風について話しても、それが環境問題だという意識がどれだけあるか。日々のできごとと環境問題を意識づけることが必要ではないか。
- ノーマイカーなどの活動は、市民にもわかりやすい活動である。10年以上取り組んでいるが、さらに活動を広げていく必要がある。企業にポスターを掲示いただくなど、目に見えるもので強く広報していつてはどうか。
- 家庭ごみについて、統計上、削減が進んでいるが、市民には、実感として分かっていないように感じる。取り組んでいる市民にとって分かりやすく、一緒に考えていけるような仕組みが必要ではないか。
- 環境問題を意識していても、例えば、船の防舷材に発泡スチロールを多用するなど、自らの行動が適正化されていない場合もある。
- ヨーロッパでは、今やペットボトルはほとんど見かけない。ビンが使われているが、こうした行動が環境の価値として広く市民から認められている。北九州らしさを考えたとき、ヨーロッパのように、環境はお金のかかる取組という考えから、北九州市の品格につながるものだという発想の転換が必要でないか。
- 保育の現場でも、SDGsの視点から、できることを積み上げている。やはり、体験することが重要であると感じている。環境問題に市民を巻き込んでいくには、日々の活動の積み重ねによって、何がどう変わるのか具体的に見せていくことが効果的ではないか。

気候変動全般に関する意見

- 前回の計画策定から、世界は大きく変わっている。
気候変動対策は、アメリカや中国が国際的な枠組みに加わったことにより、大きく動き出した。今や、環境問題から産業政策へと転換し、グローバルな競争へとつながっている。また、エネルギーや食糧や半導体など、自国で確保する、安全保障の視点から議論されており、こうした世界の急激な変化が伝わるような計画にしてほしい。
また、大企業だけでなく、中小企業も含め、サプライチェーン全体で考え、行動していく必要がある。
- 北九州市において、温室効果ガスの排出は産業部門が大きい割合を占めている。公害克服の歴史を踏まえ、企業に排出削減や省エネ機器への転換などを直接求めていくことが必要ではないか。温暖化対策は、新たな成長につながるものと感じている。
- 温暖化が問題になっているが、アスファルトの上だと 50 度、土の上だと 30 度になるという結果もある。子どもたちは、この路面の暑さの影響を直接受けている。まちづくりとの関係性を考えたとき、木陰の活用などをもっと検討する必要がある。

生物多様性に関する意見

- 戸畑アヤマメやカブトガニ、ガシャモクなどの保存活動は、いのちのたび博物館の自然系の学芸員が関わって活動に幅が出ている。生物多様性については、いのちのたび博物館の学芸員をもっと活用できるのではないか。地域の資源をもっと活用していくことが必要。

環境と経済に関する意見

- 市内企業は、まさに技術で経済を拓いてきた。基本理念にある「環境で経済を拓く」という視点は、今後さらに重要になる。温暖化対策において、製鉄業では、溶鉱炉がいるのかなど、根本からの検討が進んでいるが、脱炭素は、やはり、産業界の取組に依存していることは否めない。今後、脱炭素に関しては、企業間の横の連携や、中小企業への支援が必要ではないか。
- 環境ビジネスという視点で言えば、市内には素晴らしい技術や製品を持っている企業や大学がたくさんある。それを集めて、国内外に見てもらおうようなフェスを開催してはどうか。
- 秋田の洋上風力を視察したが、地元の課題認識の一つに、発電した電気を地元で使わず、関東圏に流れているというものがあった。北九州市でも、洋上風力の整備が進んでいるが、この再生可能エネルギーを地元で安く使えるという取組が必要ではないか。